

「町の物品・資産の活用について」

会計管理者 本村 仁操代

私がいる出納室では、物品購入のための伝票処理やさまざまな事業で使用する備品の納入確認を日々行っています。

令和7年度の町の備品購入にかかる費用(消耗品を除く)は、総額で1億3,517万4,431円でした。この中には保育園や小・中学校で使用する用具や本などの身近なものから、避難所対策用として購入した「トイレカー」のような特殊車両まで含まれています。

「トイレカー」については、町内で見かけた方や、すでに利用された方もいらっしゃるかもしれませんが、車体には町のキャラクター「みやっきー」が描かれており、町の移動式PRの役割も果たしつつ、先だっの熊本地震発生後には被災地へ派遣し、現地で活用しています。このように、町が所有する物品や施設は活用次第で価値ある形で運用し、町への還元に繋げることができます。

また、近年は世界情勢の不安定化や人件費の上昇などにより物価が高騰し、住民生活のみならず、自治体運営にも影響が生じています。このような背景から、「今ある施設や物品をいかに長く、有効に使い続けるか」という視点もさらに重要になってきています。

町が所有するすべての資産は、皆さんの税金から成り立っている大切な財産です。今後も適正な資産管理に努めてまいります。これからも皆さんの身近な公共施設や町の物品を大切にする意識を共有していただければ幸いです。

町の取組や出来事を紹介！
みやっきープラス
No.39